FORZA 駒澤OBインタビュー

History of Forza

２００１年６月２２日、記念すべきＦＯＲＺＡ第１号が発行されてから早や６年。
ＦＯＲＺＡ駒澤も今号で２００号に到達しました。そこで、これまでＦＯＲＺＡ駒澤を製作してきたコマスポサッカー班ＯＢに色々な質問をぶつけてみました。
ご協力頂いたＯＢの方々、誠にありがとうございます！！

塩田英美＝インタビュー
Interview by Emi Shioda

中野成博＝構成
text by Akihiro Nakano

質問内容
①自分たちが作ってたときどうだったか、②取材の一番の思い出
③ベストゲーム、④一番辛かったこと、⑤引退して感じたこと
⑥イチ押し選手（理由）、⑦200 号お祝いメッセージ

岩田　陽一
（01年入学〜05年3月卒）

①もう２００号なんですね。「ＦＯＲＺＡ駒澤」の始まりは私が駒大に入学して１ヶ月もたたない４月の終わりに一つ上の熊崎さんに提案したことが始まりでした。駒スポに入ってわかったのですが、新聞は年４回の発行だけでした。その間、取材には行っても新聞が出せないのはおもしろくないし、何よりも取材させてもらう選手に失礼じゃないかと思って…何かできないかなって。ホームページの充実も考えたのですが、まだまだデジカメも今の３倍ぐらい高くてお金もなくて。そこで、何よりも形あるものとして残るものがいいと思って学級通信のように紙で出せたらというところから始めました。１年目はまわりに全然認めてもらえませんでしたが、自分たちの好きなことができているという思いや、何もかもが初めてという感動で本当に楽しかったです。また、選手たちが頑張って試合に勝ってくれたことで、自分たちの取材の範囲も広がりました。東アジア大会日本代表で活躍した深井、三上選手を追いかけて大阪に行ったときはまわりが有名な記者ばかりでびっくりしました。その後も天皇杯で松本、福山、磐田と「今しかない」という思いで追いかけました。ここまで来たらどうしても高校サッカー選手権も行きたいと思って、「来年、駒大に入学する選手を取材したいと」強引に取材理由を考えて出したのも今思えばよく取材申請通してくれたなと思います。卒業までそんなことの連続でした。

②「駒大」つながりでダメもとでぶつかっていくことばかりでしたが、仲間や大学職員の方、選手のみなさんにいつも背中を押してもらいました。当時から写真を撮っていますが、やはりその場に行ないと写真は撮れないということを試合のたびに感じました。ゴールを決めて喜ぶ選手、必死にボールを追いかける姿、負けて肩を落とし歩く背中。本当にたくさんの取材の機会を提供してもらったと思っています。自分たちだけでは取材したいという気持ちはあっても相手がいなければ成り立たないものなので。ＦＯＲＺＡがあったから毎週、試合のレポートをする機会ができて、写真も撮れて。そんな機会をくれたみんなに感謝の気持ちでいっぱいです。ちょうど、大学スポーツがなかなか注目されない時期でもあったので、ユニバーシアードの取材に行き、大学生の目線から情報を発信できたのも大きかったです。

③１年生の天皇杯でのジュビロ磐田戦です。秋田監督の「プロに勝つ」という目標が目の前まできた試合でした。延長戦でプロらしいプレーでＰＫを取られてしまい負けてしまいましたが、最後の